

投稿して、いいねはつくのに

コメントも多少ある / 相談や申込みが発生しない

売上につながらず、手応えがない感覚。誰に向けているか不明

発信が「空回り」している感覚
次に繋がらない停滞状態

「中身」ではなく「順番」を疑う

原因は「努力不足」ではない

本当の理由

順番設計の欠如

- 言葉の向きが曖昧なまま出している
- 読者が次の行動を迷う導線未設計
- 感情は動いても、その先で止まる構造

結果として接点生まれ
ない
「入口」と「出口」が繋がっていない

「独り言」になる構造を壊す

- × いいねがつけば成功という認識
- × 気持ちを込めれば届くという前提
- × 「型」は不要という思い込み
- × 結論先出しが常に良いという誤認
- × 情報だけで人は動くという前提

読者が置いていかれる発信

情報伝達ではなく「会話の流れ」を作る

感情 → 理解 → 行動の設計

読者を動かす 4 ステップ

1. 感情フックで開始 / 2. 共感で接続
3. ストーリーで理解形成 / 4. 行動か問いを配置

日常会話と同じ流れを組む

順番が読者を最後まで運ぶ

「接点」が生まれる発信へ

読者の離脱が劇的に減少
共感コメント・引用・保存が増加

- 会話が自然に生まれる状態
- 読後の「迷い」がなくなる
- 次の行動（相談・申込）が見える

手応えのある発信への変化

「結論」から書き始めない

1. 最初の一文に「感情」を置く
2. 共感できる状況を一つだけ書く
3. 自分の体験（ストーリー）を入れる
4. 最後に一つだけ「問い」を置く
5. 投稿前に全体の「流れ」を確認する

感情が動くかを最後にセルフチェック
論理だけで押し通さない

読者視点への「切替装置」

投稿順番の確認用カード
独り言化を防止するための絶対基準

- 構成に迷ったときの戻り先
- 発信改善のための不変の土台
- 継続するための設計図

「自分基準」を捨て「読者基準」へ。

構造から、見直す。

- 今の書き方を続ける（いいね止まり）
- 順番設計を取り入れる（行動発生）
- 感情 → 理解 → 行動の流れを組む
- 自己流を捨て、構造から改善する

判断基準は「行動が生まれるか」

必要な人だけ、次のステップへ。